

本会議の主な論点について

「三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興ビジョン（平成 24 年 5 月環境省）」において示された「グリーン復興プロジェクト」を本県において具体化する際の考え方についてご意見を頂きたい。

（1）三陸復興国立公園の創設

本地域の魅力である自然及びその自然と密接に関わってきた浜や里の暮らし・文化を再生し将来的に引き継ぐためには、国立公園制度を活用して法的な保護を図るとともに、これまでに増して地域と連携し持続的な利用を行い、地域振興を図っていくことが効果的であると考えられる。しかし、現状では県内の国定公園や県立自然公園は必ずしも地域に歓迎される存在とはなっていない。そのため、国立公園化に際しては地域と共存し、地域の役に立つ公園像を示していく必要がある。

- 地域の復興を進めていく上で国立公園にはどのような役割が求められるのか。
- 復興の役に立つために、または現在地域で生じている問題を解決するため公園制度の運用面で改善すべき点があるか。
- 公園化の意義について、地域に前向きに捉えてもらうためには、こういった取組が必要か。
- 国立公園に編入すべき地域の検討は、こういった観点から進めるべきか。

→参考資料 2、3 参照

（2）自然や豊かな文化・「食」等を活かした東北ならではの観光スタイル

自然、文化、食といった本地域に特有の魅力をじっくりと味わう利用形態であるエコツーリズムは、本地域の復興にも大きく貢献できる可能性がある。被災地では震災体験を語り継ぐツアーや漁業者との連携による漁業体験の取組が始められている。こういった地域の活動をさらに進めていくためにはどのような取組が必要か。

- 地場産業と観光との連携はどのようなものが考えられるのか。
- 自然と密接に関わってきた暮らし・文化をどのように公園利用の取組に反映させていくのがよいか。暮らし・文化を実感できる「利用形態」とはどのようなものがあるか。
- 地域の活動を本格化するためにどんな支援が必要か。（プログラム作成、人材育成、持続的な資源利用のためのルールづくり、情報発信 等）
- 観光の起点として、また、エコツーリズムの活動拠点として、どんな機能を持った施設を何処に整備することが求められているか。

→参考資料 4 参照

(3) 森・里・川・海のつながりを活かしたフィールドの保全・活用

森・里・川・海のつながりを再生することは豊かな生態系の保全につながるとともに、そのつながりや暮らしとの関わりを学ぶことは、ツーリズムの重要な要素になると考えられる。

里山・里海フィールドミュージアムの取組は、公園内外の里山・里海、集落地を含めた一定のまとまりを持つ地域をフィールドミュージアムとして位置づけ、エコツーリズムや環境教育を面的・複合的に推進することで公園周辺部も含めて地域の活性化に貢献しようとするものである。本取組をどのような観点で進めていくべきか。

- 森・里・川・海のつながりを実感する活動とは、どのようなものが考えられるか。
- 点在する資源のつながりを引き出し、面的に捉えて活用を検討するには、どのような観点やプロセスでの検討が必要か。
- 本県沿岸部を俯瞰した場合、環境特性に応じた地区毎のテーマ設定が考えられるか。
- フィールドミュージアムでの活動の核となる施設にはどのような機能が必要か。

→参考資料5 参照

(4) 東北海岸トレイル

東北海岸トレイルは、地域の自然や暮らし、震災の痕跡、利用者と地域の人々などを様々な結ぶ道として路線を設定し、歩くスピードで旅をすることにより、車での旅では見えない、自然と人里の風景や歴史・文化などの奥深さを知り、体験する機会を提供することを目指すものである。本取組をどのような観点で進めていくべきか。

- 利用者が歩く魅力を実感するとともに、地域が「誇り」を感じ、地域の活性化にも資するためには、どのような仕組みが必要か。
- 本県沿岸部の各地区の魅力を十分に味わえるようなルート設定（地区毎のテーマ設定）とはどんなものが考えられるか。
- ロングトレイルの利用や管理を考えた場合、どのような施設が必要か。
- トレイルの魅力を高めるためには、どのような管理運営が必要か。

→参考資料6 参照

(5) その他

- 被災地と内陸部との観光面での連携はどのように進めるべきか。
- 外国人利用者への対応を検討する際には、こういった点に留意すべきか。